

高校野球夏の節電

第93回全国高校野球選手権愛知大会の開幕が、9日に迫った。東日本大震災の影響で、各校の野球部でも朝練習の時間を早めたり、ナイター用の照明の一部を消したりしながら節電に取り組んでいる。いつもと違う練習メニューに戸惑いながらも、球児たちは「不利と思わず、プラスの力に変えたい」と最後の追い込みに入っている。(山下昌一)

早朝練習など各校工夫

県大会9日開幕

シード校の一つ、大府(大府市)は3月の震災後、朝練習の開始を1時間早め、午前6時半に集合している。グラウンドの照明の節

電で、放課後の練習は1時間早く切り上げているため、誰も指示していないのにだんだんと早く来るようになった。最初は監督も知らなかった」と、鈴木雄太(17)(3年)は振り返る。

話をす。節電の取り組みは、ほかの学校でもみられる。愛知啓成(稲沢市)は午後8時にグラウンドの一塁側の照明を落とし、それ以降の練習は屋内練習場で行っている。愛産大(三河岡崎市)は、ボールを使う練習は明るい時間帯に集中して行い、暗くなった後は極力照明を使わずにランニングなどに切り替える。東邦(名古屋市長久)は来客時以外は、監督室の冷房を使用しない。

朝はノックや打撃練習が中心。ピッチングマシンの利用も抑えている。野手同士の連携プレーなど実践形式の練習は不足するが、鈴木雄太は「チームの一体感が増した」と胸を張る。基礎を重視したことで、バットの振りが鋭くなるなど思わぬ効果もあった。野田雄仁監督(28)は「現時点で我々ができるのは節電ぐらい。野球をできるありがたさを感じながら、泥臭く粘り強く勝ち上がりたい」と語る。

愛知大会の球場では、目立った節電策は講じないというが、県高校野球連盟の渡会芳久理事長は「照明を使わなくていいように、スปีディーな試合運びを心がけてほしい」と話している。



朝練習でノックを受ける大府の選手

朝練習でノックを受ける大府の選手